

## 報告 2：于海春（早稲田大学・院）

「中国における新聞奨の地域間比較分析—受賞したニュース作品の内容分析を中心に」

本研究はメディア統制の技術の一つとしての報奨に焦点を当てて分析を行う。報奨制度とは、中国新聞工作者協会（中国新聞記者協会）の管理の下で確立された、ニュース報道・ジャーナリストを選考対象とした表彰制度である。代表的な報奨として「中国新聞奨」（作品奨）がある。改革開放後、中国共産党・政府はメディア統制の一環として報奨を重視した。新聞奨は「良いニュース」のモデルを示すことで、メディアの役割、責務を強調している。このように報奨制度は重要な統制技術の一つである。しかし、先行研究では報奨制度の有効性に対する考察は十分に説得力があるものとはいえない。その原因は、中国メディアの統制技術には先行研究で地域的な多様性があると指摘されているにもかかわらず、報奨制度を画一的と捉えており、実行レベルにおける地域的バリエーションの有無に対する実証が欠けているからである。

本研究では、新聞の報奨制度の有効性を考察するために、北京・広東・上海の三地域を比較する。内容分析では、1997年度から2012年度までにそれぞれの地域奨で一等賞を取った作品を分析対象とした。分析結果から次の二つの発見があった。一つ目は、受賞した作品の所属組織構成における地域的差異である。上海の受賞作品においては国家通信社、党機関紙の記事が圧倒的なシェアを占めている。一方で、北京、広東では国家通信社、党機関紙と商業紙との差が顕著ではなかった。二つ目は、批判性報道における地域的差異である。広東には、官員の不正・腐敗を取り上げる作品が相対的に高い割合を占めている。一方で、上海の受賞作品には社会の良い気風を反映する報道の占める割合がはるかに高かった。

新聞奨は制度上中央と地方で一貫性をもつにもかかわらず、実行レベルでは地域によって評価基準が異なることが分かった。ここから、報奨制度は各地域のそれぞれ異なるメディア実践に合わせて行われており、柔軟性がある制度だといえる。